

## 市外局番「06」誕生の歴史

(詳細は、別紙「尼崎の市外局番「06」が誕生するまでの略年表」参照。)

- 1871(明治4) 鉄道線筋に電信線が架設される。沿線の市町村の利用は認められなかった。
- 1883(明治16) 神崎電信分局が開設され、尼崎で電信が利用できるようになる。
- 1890(明治23) 電話交換規則制定される。東京横浜間で交換業務開始(民間利用の始まり)。
- 1893(明治26) 大阪～神戸間で電話交換業務が開始される。
- 1896(明治29) 尼崎紡績が大阪電話交換局管内の特別加入区域として電話を開設する。
- 1902(明治35) 尼崎共用電話所が開設される。尼崎町、杭瀬・長洲・金楽寺・西長洲(小田村)、東難波・西難波(立花村)、道意新田(大庄村)が、呼び出し加入区域。
- 1908(明治41) 尼崎郵便受取所で電話交換業務が開始される。
- 1923(大正12) 「電話増設につき市会意見書」が提出される(電話配当数の増加と市域全域を普通加入区域にすることを要望)。
- 1928(昭和 3) 尼崎市南城内に尼崎郵便局電話分室が開設される。
- 1930(昭和 5) 大庄村が「電話取扱特別区域編入につき陳情書」を提出。翌年、実現。
- 1947(昭和22) 市内の電話・郵便局管内と尼崎市の行政区域の一致を要望する動きが出る。
- 1949(昭和24) 市内の電話が、尼崎、伊丹、西宮の3電話局所管であることに改善の要望の建議が出る。
- 1951(昭和26) 尼崎市議会に、「通信機構整備拡充特別委員会」が設置される。
- 1953(昭和28) 尼崎市議会が電話債券を引受ることを議決。全市域の大阪局編入を電電公社に申し入れる。
- 1954(昭和29) 尼崎電報電話局が西長洲に新築移転完成。全市域の大阪局編入が実現する。